

人生+色 私を豊かにする まちの入り口

慈恵医大「ボランティア論」から

市民活動支援センターでは、4年前の2019年から、東京慈恵会医科大学医学部看護学科(以下、慈恵医大)の「ボランティア論」(1・2年生の選択授業)、授業の1コマで履修生のボランティア体験先の調整を行い、将来、看護師や保健師を目指す学生の学のお手伝いをしています。今回の特集記事では、この授業の目的や、地域活動に参加した学生の感想の一部を紹介します。



慈恵医大「ボランティア論」のねらい 慈恵医大看護学課教授 崎澤 順子 氏より

慈恵医大「ボランティア論」へのご協力、本当にありがとうございます。「ボランティア論」は、看護学科としてこれまでにない先進的取り組み科目として4年前に設置した科目です。調布市市民活動支援センター、調布市内のボランティア活動の皆様からの多大なご協力を得て、開講しています。

学修の一環として行う「ボランティア活動参加」を通して、学生たちはこれまで体験しなかった活動との

出会い、理念を持って行動されている市民の皆様との出会いといったダブルの出会いをもつことが、大きな学びにつながっていると考えています。未来の医療保健福祉の場で創造的に活動する力を、市民の皆様から授けていただいている、と思っています。これからも、どうかよろしくお願ひいたします。



崎澤 順子 氏

授業の内容

ボランティア論は、4月～6月の授業として実施されています。大きく分けると①ボランティア活動の概説(定義や歴史)、②活動体験に向けた準備、③活動体験、④活動報告会の4つのパートに分かれています。センターでは、②の部分に授業でお伝えし、③で活動団体の皆さんご協力のもと、履修生の体験をサポートしています。

今年度の授業では、センター職員の講義に加え、えんがわのよ4月号で特集した「しばさき彩ステーション」の副代表、大木智恵子さんから、活動内容や想いを臨場感たっぷりに語っていただきました。授業後の学生の感想では、様々な活動や参加する方の背景を意識しながら活動に参加することで、将来の看護に役立つと感じたといった嬉しいコメントをもらうことができました。

ボランティアに参加した学生の声

「入間樹林の会」の活動に参加し、樹林を保全するためのトラップ作りや草刈り体験をしました。

今回のボランティア活動を通して、その意義や魅力は何か改めて考えることができたと思います。私が導き出した答えは一つではありませんが、その中でも一番強く感じたことは「地域とのつながりが生まれる」ということです。

活動に参加していなければ、入間樹林の会のメンバーとは一生出会っていなかったかもしれないです。入間樹林に足を運ぶこともなかったかもしれない。ボランティアは一期一会ということを心から感じました。

ボランティアを通して、地域を知り、人との出会い、自分の価値観を広げられる。自分の世界が広がれば人生の選択肢が増え、それは確実に自分への大きな利益になる。こうしたことを自分の身で体感でき、とても良い経験になりました。



『川の図書館』という活動に参加しました。『川の図書館』は多摩川の河川敷で行われていて、寄付された本を無償で提供する活動です。

私は、本の片付けや整理、地域の方々と交流をしました。初めは、緊張していてもなかなか自分から話しかけることができませんでしたが、地域の方々の温かさに触れていく中で、徐々に勇気が湧き積極的な話ができるようになりました。

講義を受ける前は、ボランティアとは誰かのために何かをしてあげることと捉えていました。しかし、実際にボランティアに参加してみて、自分自身が成長できる場所でもあると実感しました。年齢や性別など様々な方と交流することができ、とても楽しく充実した一日となりました。自分の身近な場所ではどんなボランティア活動が行われているのか興味がおききました。

『しばさき彩ステーション』にボランティアとして訪問しました。私は活動を通して、将来看護師として多くの患者さんに会う度にその背景をきちんと考え、その人らしさを大切にしていきたいと考えました。

1日という短い時間でしたが、持病がなかったらもう少しここに一生懸命取り組んでいる方や、多くの苦勞を重ねながらも工夫を凝らし、たくさんの人を笑顔にする方など、多くの人に出会うことができました。

このように「しばさき彩ステーション」で出会った方々は、様々な背景がありましたが、目標に向かって輝いていた。そのため、病気や怪けによりこの輝きが無くなってしまう、看護師として共に考え、解決し、輝きが増すようなサポートをしていきたいと思いました。

おわりに

今年度は学生の受け入れ先として、9団体の皆さまにご協力いただきました。学生の体験は、継続的に行われている活動の中の一つの瞬間に過ぎませんが、体験を通して関わった方々の想いや人柄に触れ、様々な気づきや学びにつながったのではないかと思います。

地域とは、異なるものとのつながりや暮らしを送っています。誰もが当たり前に、いつも幸せに暮らすことができれば素晴らしいですが、きっと誰もが少し置いてしまったり、立ち止まらなくなったりの瞬間や経験があるのではないのでしょうか。そんな時、地域の中の気配にアクセスできる場で、少しの息抜きをしたり、仲間を見つかりたいと、



新たな1歩が踏み出しやすくなるはずです。今回の授業が、誰もが取り残されることのない、ひとりひとりが重要な社会の実現に向け、学生の視界が広がるきっかけになれば幸いです。

市民活動支援センターでは、今回学生を受け入れて下さった9団体のように、身近なところで地域や社会に繋がることができると多様な入り口があることが重要だと考えています。入り口を探している方も新たな入り口を作りたいという方も、ご相談をお受けしていますので、お気軽に市民活動支援センターへいらしてください。